

第8次旭川市総合計画基本計画改定案 成果指標一覧

資料7

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
1	3	基本政策1 子育てに希望を持ち、子どもの成長を支える環境づくり	合計特殊出生率 (本市が子どもを生み育てやすい環境にあるかを計ります)	旭川市 1.28 (H26) 全国 1.42 (H26)	旭川市 1.32 (H29) 全国 1.43 (H29)	全国値	↗	○「合計特殊出生率」が、依然として全国値に及ばないながらも上昇傾向にあること、「子どもが健やかに成長していると感じる市民の割合」も上昇傾向にあることから、今後も現在の施策で充実させてきた取組の継続を基本としながら、近年、増加傾向にある児童虐待や子どもの貧困といった問題に対応するなど、目標達成に向けて取組を促進させる必要がある。	全国値	全国値よりも低い水準で推移していることから、全国値を目標とする。	全国値
2			年少人口割合 (子どもが生まれ育ち、本市が持続的に発展する人口構成になっているかを計ります)	旭川市 11.5% (H27) 全国 12.9% (H27)	旭川市 10.9% (R1) 全国 12.2% (R1)	全国値	↘		全国値	全国値よりも低い水準で推移していることから、全国値の水準を目標とする。	全国値
3			子どもたちが健やかに成長していると感じる市民の割合 (地域において次代を担う子どもたちが健全に育っているかを市民の意識で計ります) [旭川市民アンケート調査]	55.5% (H27)	59.9% (R1)	60%	↗		65%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	70%

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
4	5	基本政策2 生涯を通じて健康に暮らせる保健・医療の推進	健康寿命 (日常的に介護を必要としないで、健康で自立した生活ができる期間が伸びているかを計ります)	(健康寿命) 男性:78.59歳 女性:82.90歳 (H25) (平均寿命) 男性:80.03歳 女性:86.03歳 (H25)	(健康寿命) 男性:79.14歳 女性:84.10歳 (H28) (平均寿命) 男性:80.49歳 女性:87.17歳 (H28)	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	男性：達成 女性：達成	○「健康寿命」の延伸には、疾病の発病を予防する「一次予防」、早期発見・早期治療の「二次予防」、医療と連携する「三次予防」を総合的に推進していく必要がある。中でも、身体機能や生活の質を低下させ、また、要介護状態の要因となる、がん、心血管病などの生活習慣病が増大することが、健康寿命に大きく関与することは明らかであり、その発症及び重症化予防対策が重要となる。 ○「特定健診受診率」が目標を達成していないことは、生活習慣病の発症や重症化につながり、その結果として健康寿命の延伸が低迷している一つの要因といえるため、市民が主体的に健康づくりに取り組むための環境整備と情報提供を強化する必要がある。	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	平均寿命と健康寿命の差を短縮することを目標とする。	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加
5	5		生活習慣病の年齢調整死亡率 (人口10万対) (市民の健康への意識が高まり、生活習慣病の予防、早期発見、治療が進んでいるかを計ります。)	悪性新生物 (75歳未満) 男：107.1 女：57.0 虚血性心疾患 男：44.6 女：16.2 脳血管疾患 男：39.8 女：18.2 (H26)	悪性新生物 (75歳未満) 男：104.6 女：60.0 虚血性心疾患 男：46.4 女：21.2 脳血管疾患 男：36.0 女：16.6 (H29)	悪性新生物 (75歳未満) 男：93.9 女：50.0 虚血性心疾患 男：42.0 女：15.5 脳血管疾患 男：37.2 女：17.6	悪性新生物 (75歳未満) 男：↗ 女：↘ 虚血性心疾患 男：↘ 女：↘ 脳血管疾患 男：達成 女：達成		悪性新生物 (75歳未満) 男：93.9 女：50.0 虚血性心疾患 男：42.0 女：15.5 脳血管疾患 男：37.2 女：17.6	国の健康日本21「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」を参考に算定した値を目標とする。	悪性新生物 (75歳未満) 男：93.9 女：50.0 虚血性心疾患 男：42.0 女：15.5 脳血管疾患 男：37.2 女：17.6
6	5		特定健診受診率 (健康保持や疾病予防のための受診状況を計ります)	21.8% (H26)	24.7% (H30) ※速報値	38%			50%	旭川市国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画に基づく値を目標とする。	60%

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
7			互いに助け合いながら暮らしていると感じている市民の割合 (互いの支え合いの中で安心して暮らすことのできる環境にあるかを市民の意識で計ります) [旭川市民アンケート調査]	43.5% (H27)	42.9% (R1)	49%		○「障害者の雇用率」及び「前期高齢者のうち、要介護1以上の認定を受けている高齢者の割合」が上昇していることなどから、障害のある方の社会参加や就労の支援、介護予防に係る取組などの成果が見られる一方、「互いに助け合いながら暮らしていると感じている市民の割合」が減少していることから、今後も現在の施策に基づく取組の継続を基本としながら、高齢者の社会参加や世代間交流を促進するなど、目標達成に向けた取組を充実させることが必要である。	54.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	60%
8	7	基本政策3 互いに支え合う福祉の推進	障害者の雇用率 (障害者の社会参加が進んでいるかを計ります)	2.07% (H26)	2.19% (H30)	法定雇用率以上			法定雇用率以上	「障害者の雇用の促進等に関する法律」に定める法定雇用率を下回らないことを目標とする。	法定雇用率以上
9			前期高齢者のうち、要介護1以上の認定を受けている高齢者の割合 (介護予防等の効果を、前期高齢者のうち、要介護1以上の認定を受けている人の割合で計ります)	3.41% (H26)	3.26% (H30)	3.41%以下	達成		3.34%以下	第7期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画において設定した値を目標とする。 これに伴い、第3期目標値も改定する。	3.34%以下

整理 番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
10	9	基本政策4 次代の担い手 が、生き生き と学ぶ教育の 推進	子どもたちが健やかに成長 していると感じる市民の割 合（再掲） （地域において次代を担う子 どもたちが健全に育ってい るかを市民の意識で計ります） 【旭川市民アンケート調査】	55.5% (H27)	59.9% (R1)	60%	↑	○「子どもたちが健やかに成 長していると感じる市民の割 合」、「子どもたちへの教育 環境が充実していると感じる 市民の割合」がともに上昇し ていることから、今後も現在 の施策における各取組の継続 を基本としながら、高等教育 機関の設置に向けた検討の継 続や、教育の機会均等に向け た給付型奨学金の創設など新 たな支援策についても検討す るなど、目標達成に向けた取 組を充実させることが必要で ある。	65%	旭川市民アンケート調査の 結果に関する指標であり、 第1期と第3期の中間値を 目標とする。	70%
11			子どもたちへの教育環境が 充実していると感じる市民 の割合 （児童生徒等の教育環境（学 校施設や指導体制など）の充 実が図られているかを市民の 意識で計ります） 【旭川市民アンケート調査】	31.6% (H27)	34.2% (R1)	35%	↑		旭川市民アンケート調査の 結果に関する指標であり、 第1期と第3期の中間値を 目標とする。	42%	

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
12	11	基本政策5 スポーツや文化に親しみ、 学びを深める 環境づくり	学習活動及び社会活動における生涯学習ボランティア数 (地域社会の担い手として、市民が自ら学んだ成果を発揮している状況を計ります)	838人 (H27)	780人 (R1)	892人	↓	○市民が主体的に学ぶ機会が充実していると感じる市民の割合、文化芸術に対する市民の関心が低下している傾向があることや、スポーツに親しむ市民の割合が低迷していることから、これらの課題に対応するためには、引き続き、現在の施策に基づく取組を継続・充実させ、市民の学習活動や社会活動に関する支援や文化芸術に対する関心の喚起、スポーツを通じた地域活性化の推進を図ることが必要である。	892人	第1期の目標値を達成していないことから、引き続き、第1期の目標値を目標とする。	1,000人
13			趣味・教養の講座や、今日的な課題などについて学ぶ機会が充実していると感じる市民の割合 (趣味・教養の講座や、今日的な課題などについて学ぶ機会及び環境の充実度合いを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	26.7% (H27)	25.5% (R1)	30%	↓		33.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	37%
14			文化芸術活動が盛んなまちであると思う市民の割合 (文化芸術に触れる機会や市民による文化芸術活動の状況を市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	32.0% (H27)	29.3% (R1)	35%	↓		38.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	42%
15			スポーツ実施率 (市民がスポーツに取り組んでいるかを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	27.6% (H27)	28.6% (R1)	35%	↑		42.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	50%

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
16	13	基本政策6 魅力と活力のある産業の展開	一人当たりの市民所得 (経済活動により、市民生活が経済的に豊かになっているかを計ります)	旭川市 2,230千円 (H23) 全道 2,475千円 (H23)	旭川市 2,087千円 (H26) 全道 2,560千円 (H26)	一人当たりの 道民所得			一人当たりの 道民所得	道民所得より低い水準で推移していることから、一人当たりの道民所得を目標とする。	一人当たりの 道民所得
17			製造品出荷額等 (地場製品の競争力が向上し、国内外で広く販売されているかを計ります)	1,837億円 (H25)	2,156億円 (H29)	1,890億円	達成	○「製造品出荷額等」の増加、地場製品の販売力の向上や「有効求人倍率」の上昇といったプラス要素がある一方、高齢化等により労働力人口が減少する中、農業など地域産業の担い手不足や雇用のミスマッチ、市民所得の増加につながっていないなどの課題があることから、人材の育成・確保、ブランド力の向上や生産性の向上など現在の施策に基づく取組を基本に目標達成に向けて取組を充実させることが必要である。	2,213億円	H27とH28の1人当たりの製造品出荷額等の伸び率を参考に、生産年齢人口一人当たりの製造品出荷額等（生産性の確保）の水準に目標年度の推計生産年齢人口を乗じて得た額を目標とする。	2,264億円
18			有効求人倍率 (地域の雇用が創出されているかを計ります)	旭川市 0.85倍 (H26) 全道 0.86倍 (H26)	旭川市 1.17倍 (H30) 全道 1.17倍 (H30)	全道値	達成		全道値	全道値と同程度か低い水準で維持しており、全道値の水準を目標とする。	全道値
19			農業生産額 (農業の生産性が向上しているかを計ります)	146億円 (H26)	124億円 (H30)	147億円			147億円	第1期の目標値を達成していないことから、引き続き、第1期の目標値を目標とする。	149億円

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
20	15	基本政策7 温かなまちの 賑わいと国内 外との多様な 交流の創出	旭川市は活気と賑わいのあ るまちだと思う市民の割合 (まちに賑わいや活気がある かを市民の意識で計ります) [旭川市民アンケート調査]	21.7% (H27)	20.2% (R1)	25%	↓		28.5%	旭川市民アンケート調査の 結果に関する指標であり、 第1期と第3期の中間値を 目標とする。	32%
21			中心部の歩行者数 (中心部に賑わいがあるかを 計ります)	130,407人 (H27)	117,635人 (H29)	136,000人	↓	○外国人観光客の増加等により、「観光客宿泊延数」が増加傾向にあるが、本市及び周辺自治体の人口減少・少子高齢化の影響から、中心市街地への来街増加には至っていないと推測される。今後も、引き続き、現在の施策に基づく取組を継続・充実させることにより、中心市街地の回遊、本市及び周辺町の周遊による観光客等の滞在・消費拡大、幅広い世代の移住促進等を図ることが必要である。	136,000人	第1期の目標値を達成していないことから、引き続き、第1期の目標値を目標とする。	145,000人
22			高速交通利用者数 (市外との交流が活発になっているかを計ります)	622.3万人 (H25)	625.1万人 (H28)	630万人	↑		630万人	第1期の目標値を達成していないことから、引き続き、第1期の目標値を目標とする。	640万人
23			観光客宿泊延数 (国内外から訪れる観光客が本市に滞在している状況を計ります)	74.4万泊 (H26)	108.3万泊 (H30)	100万泊	達成		130万泊	H20からH30までの宿泊延数前年比平均を基に、東日本大震災後の反動や北海道胆振東部地震とふっこう割による反動による伸び率を特別な事情として考慮した上、市内ホテル新規開業などの要素を加えて算定した数値を目標とする。	130万泊

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
24	17	基本政策8 四季を通じて 暮らしやすい 快適な都市の 構築	快適に生活できる環境にあると感じている市民の割合 (快適な市民生活の基盤となる安定した都市機能が保たれているかを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	38.6% (H27)	39.4% (R1)	42%	↗	○生活環境や都市景観に対する市民の印象はほぼ横ばいの状況であるが、今後も大雪や大雨といった自然災害への対応強化、人口減少などによる空家対策などの課題があることから、除排雪体制の確保や道路・河川の計画的な整備、空家問題に対応するための関係機関との連携や法体制の整備など、現在の施策に基づく取組を基本に目標達成に向けた取組を推進することが必要である。	45.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	49%
25			心地良い景観だと感じている市民の割合 (川や緑など自然と調和した本市の特徴的な景観が良好に保たれているかを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	37.4% (H27)	36.2% (R1)	42%	↘		46%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	50%
26			環境基準達成度 (快適で健康に暮らせる生活環境が保たれているかを計ります)	11/14 項目 (H26)	13/14 項目 (H30)	14/14 項目	↗		14/14 項目	・旭川市環境基本計画【第2次計画・改定版】に基づく値を目標とする。	14/14 項目

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
27	19	基本政策9 環境負荷の低減と自然との共生の確保	ごみ総排出量 (廃棄物の発生・排出抑制が進んでいるかを計ります)	118,548t (H26)	117,227 t (H30)	112,800t	↑	○「ごみの総排出量」が減少傾向にあること、また環境学習の場には多くの参加者が見られることなど、市民の環境に対する意識が高まっていることが推測されるが、家庭ごみの総排出量が減少しているのに対し、事業系ごみの総排出量が増加しているなどの課題があることから、市民はもとより事業者に対しても環境や省エネに関する意識啓発を進めるなど、現在の施策に基づく取組を継続・充実させる必要がある。	109,000t	・新・旭川市ごみ処理基本計画【改訂版】に基づく値を目標とする。	100,000t
28			温室効果ガス排出量 (環境負荷の低減が進んでいるかを計ります)	2,695 千t-CO2 (H23)	3,406 千t-CO2 (H27)	2,525 千t-CO2	↓		2,376 千t-CO2	・旭川市環境基本計画【第2次計画・改定版】に基づく値を目標とする。	2,193 千t-CO2
29			緑などの自然環境が良いと感じている市民の割合 (恵まれた自然という地域資源が生活環境の中で生かされているかを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	59.0% (H27)	57.9% (R1)	62%	↓		65.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	69%

整理 番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
30	21	基本政策 10 安心につながる 安全な社会 の形成	災害や犯罪などに対して不安を感じている市民の割合 (安全・安心なまちに向けた取組が進んでいるかを市民の意識で計ります) [旭川市民アンケート調査]	61.5% (H27)	67.9% (R1)	58%	↓	○自主防災組織率の向上や市内犯罪発生件数の減少などにより、「災害や犯罪などに対して不安を感じている市民の割合」や「市民の人的災害り災率」は減少傾向にあったが、R1年度の調査において「災害や犯罪などに対して不安を感じている市民の割合」が上昇しており、これは近年の豪雨や北海道胆振東部地震などの自然災害の発生による影響であると推測される。 ○大規模自然災害等に即応できる体制充実のためには、これまでの災害に係る検証を実施し、その結果を適宜、反映していくとともに、他の自治体など公共機関との連携の継続や、地域における自主防災組織との連携の強化などに引き続き取り組む必要がある。	54.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	51%
31			市民の人的災害り災率 (事故や事件などの人為的な災害が減っているかを計ります)	1.36% (H26)	0.91% (H30)	1%未満			達成	1%未満	人為的な災害に遭うこと(り災)が1%未満となることを目標とする。

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
32	23	基本政策 1 1 市民, 地域, 行政が結び付き, 心が通い 合う環境づくり	本市に愛着や親しみを感じている市民の割合 (市民が郷土愛を抱くようなまちづくりが行われているかを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	77.8% (H27)	76.7% (R1)	78%	↓	○「本市に愛着や親しみを感じている市民の割合」が高い割合で推移していることに対し、「まちづくりに関心がある市民の割合」、「地域で主体的に活動している市民の割合」がともに減少しており、本市への愛着がまちづくりへの関心や地域での主体的な活動につながるよう、今後についても、現在の施策に基づく取組を継続し、市民や地域、行政が協力して公共的な課題の解決に取り組む環境づくりを推進する必要がある。	79%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	80%
33			まちづくりに関心がある市民の割合 (市民が関心を持てるようなまちづくりが行われているかを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	73.0% (H27)	70.0% (R1)	75%	↓		77.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	80%
34			地域で主体的に活動している市民の割合 (市民が主役となってまちづくりが進められているかを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	13.5% (H27)	13.4% (R1)	17%	↓		21%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	25%
35			ワーク・ライフ・バランスを実現できていると思う市民の割合 (男女が能力を発揮し、活躍できているかを市民の意識で計ります) 【旭川市民アンケート調査】	17.3% (H27)	22.0% (R1)	25%	↑		26.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	28%

整理番号	ページ	基本政策	指標名及び説明	基準値	第1期実績値 (R1) (2019)	第1期目標値 (R1) (2019)	第1期目標値の 達成状況	成果指標に基づく客観的評価	第2期目標値 (R5) (2023)	第2期目標値設定の考え方	第3期目標値 (R9) (2027)
36	25	基本政策 1 2 広域連携によるまちづくり	上川中部定住自立圏形成協定に基づく取組数 (日常生活において特に結び付きが強い上川中部 1 市 8 町の連携が進んでいるかを計ります)	152 (H27)	155 (R1)	166		○定住自立圏構想に基づく事業展開等により、広域的な共通課題の解決などを図るために連携を進めることができています。○また、現在の施策の考え方を継続しながら、北海道全体の活性化を目指して、取組を更に充実させていく必要がある。	166	第1期の目標値を達成していないことから、引き続き、第1期の目標値を目標とする。	182
37	25		北北海道の自治体との連携による取組数 (北北海道の自治体との連携が進んでいるかを計ります) ※上川中部定住自立圏（1市8町）形成協定に基づく取組数を除く	26 (H27)	36 (H30)	28	達成		第1期は、4年間で10件増加しているが、JRの路線ごとの協議会など、喫緊の課題に対応するため、急激に増加した背景がある。第2期に向けては、1年につき1件の増加を目標とする。	41	46
38	26	基本政策 1 3 機能的で信頼される市役所づくり	市役所に対して良い印象を持っている市民の割合 (市民と市役所の信頼関係が構築されているかを市民の意識で計ります) [旭川市民アンケート調査]	39.2% (H27)	37.1% (R1)	43%		○「実質公債費比率」や「将来負担比率」が増加していることから、本市の財政運営は厳しい状況となっており、将来の財政需要に対応できるよう、現在取り組んでいる財政健全化をより一層進める必要がある。 ○また、職員の事務処理誤りや不祥事などにより、市民の行政に対する信頼低下を招き、「市役所に対して良い印象を持っている市民の割合」が低下していると考えられることから、組織体制の強化や職員個人のコンプライアンス意識の向上などに取り組み、信頼回復に努める必要がある。	46.5%	旭川市民アンケート調査の結果に関する指標であり、第1期と第3期の中間値を目標とする。	50%
39			実質公債費比率 (市の借入金（地方債）の返済額及びこれに準じる経費の大きさで、計画的な財政運営が行われているかを計ります)	7.0% (H26)	7.8% (H30)	6.6%			7.0%	基準値を下回っていることから、基準値を目標とする。	7.0%
40			将来負担比率 (将来財政を圧迫する可能性の度合いの大きさで、将来の世代に過度に負担を先送りしない財政運営が行われているかを計ります)	90.3% (H26)	95.4% (H29)	86.0%			90.3%	基準値を下回っていることから、基準値を目標とする。	90.3%